「地球の顔」ニュース

公開No.37
責任者　春日井 晃一

回覧確認欄

環境内部監査でアイコク版ＥＭＳの両輪を確認
『チームが誇れる品質、強み』を更に伸ばす・増やす。
『環境への影響』を評価し守るべきことを守る。

2020 年度の環境内部監査では①事業活動と環境改善活動の融合で成果を出す、②「環境への影響」を評価し守るべき事を守っているか、この２点を確認しました。

①事業活動と環境改善活動の融合で多くの成果が出せました！

★チームが誇れる品質、拘り品質を自慢！
- 金型割れ原因追及へのメンバーの調査・分析力の高さが自慢！（ＦＲＤＧ）
- 独自工法で荒･仕上げ１工程化ﾁｬﾚﾝｼﾞ。他社１週間を 2～3 日に短縮（ＡＥ１Ｇ）
- ﾁｰﾑ内勉強会の積極的開催。昨年 46 回に対し、今年は既に 70 回開催（ＭＫＣＴ）
- 安全上の危険潜在箇所をｲﾗｽﾄ化し予知予測訓練する独自活動展開（ＳＫＣＴ）

★チーム・グループの強みを伸ばす・増やす取組み
- 統合で熱処理と加工部門が協力できるようになり強みが拡大した（ＦＧＰＴ）
- 背面スレ傷改善等、仕上げ作業の工数削減に課題ﾗﾘｰで取組んでいる（ＡＰ２Ｇ）
- 業界で一目置かれる資格取得と教育訓練管理項目を結びつけてある（ＭＮＢＴ）
- PC ｾｯﾄｱｯﾌﾟのﾏﾆｭｱﾙ化でﾊﾞﾗﾂｷが無くなり、手戻り作業も無くなった（ＩＴＫＴ）

★メンバーのどんな力量をどんな活動で伸ばしているか
- 生技として構造理解と多能工化計画表による力量 UP に取組み中（ＪＥ１Ｇ）
- 他事業部からの移籍者に対しＡＰ事業部の品質ｼｽﾃﾑ勉強会を実施（ＡＬ２Ｇ）
- 製品知識など触れる機会が少ない項目を QMS 勉強会に組込んでいる（ＭＣＡＴ）
- ポジティブラリー開始。褒められた事、良かった事を皆で申請し合う（ＥＣ２Ｇ）

★課題ラリー「達成基準の設定」
- 月間梱包数 500→700 ｶｰﾄﾝは部門横断活動で具体的かつ達成可能（ＦＤＰＧ）
- 中型ﾁﾀﾝｲﾝﾍﾟﾗ採算 30%改善は営業裏付けもあり達成可能と確認（ＡＰＤＴ）
- 顧客のﾘﾘｰｽｱｯﾌﾟ技術向上では技術資料蓄積 20 件と達成基準が明確（ＭＱＣＴ）

★課題ラリー「環境目標の設定」で多くのアドバイスを得られた
- 不良削減は電力･油だけでなく、廃棄物削減などもっと効果がある（ＦＱＳＴ）
- ﾁｰﾑﾚﾍﾞﾙだけでなくｸﾞﾙｰﾌﾟﾚﾍﾞﾙで目標設定すると次に繋げやすい（APIT/AEXT）
- お客様の効率改善に焦点を置いて目標設定するとより面白くなる（MS 事業部）

②環境への影響評価（どんな影響を受けるか及ぼすか）とその対応も進んでいます。

★緊急事態への対応準備
- 購買Ｇ独自の資料で重要部品製造の流れが詳細に明示されていた（ＦＤＣＴ）
- 緊急事態発生時の緊急連絡網を事務所に掲載し対応が取れる様に準備（ＡＰＥＴ）
- ｼｽﾃﾑ故障など顧客業務停止に係わる事態には翌稼働日以内に対応協議（ＭＣＭＴ）
- 力量管理表によりｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ化に特化せずお互いに業務をｶﾊﾞｰし合う（ＣＫＳＴ）

★重点課題の途中見直し
- いこいの広場工事は変更が発生したが、早期に見直し新計画通り進捗（ＥＣＳＴ）

※品質改善、生産性向上への課題が多く、ｺﾛﾅ禍でも大半のﾁｰﾑが見直し不要でした。

★「経営者による見直し」への対応
- チームで掲げたゼロディフェクト活動が事業部の課題に発展展開した（ＦＳＰＴ）
- 品質ﾊﾟﾄﾛｰﾙ見直し。記録確認ではなく、手順通り作業できているか確認（ＡＱＣＧ）
- QMS 内部監査重欠点対策として専門分野ＥＬが若手育成勉強会を実施（ＭＣＳＴ）
- QC 検定、技能検定など自信を持ってﾊﾟｰﾄﾅｰのﾚﾍﾞﾙｱｯﾌﾟｻﾎﾟｰﾄができた（ＧＳＲＴ）

■ 2021 年はチーム独自の視点で環境改善活動を強化しましょう！

事業活動との融合が定着し、守るべきことも守れています。次のステップとして、チーム毎に異なる環境を今まで以上に見つめ直していただき、チーム独自の視点で環境改善活動（状況把握→課題抽出→計画策定→活動（課題ラリー））を強化しましょう。

＜コラム＞アイコクアルファの太陽光発電

我社には、太陽光発電パネルが 5 基設置されています。これらは、実際にどれほどの電力を生み出しているのでしょうか。直近 1 年間の実績を調べてみました。

設置工場	容量 kW	年間発電量 kWh（’19/10～’20/9 月）	年間電灯使用量 kWh（‘19/10～’20/9 月）	賄い率 %	売電 or 自家消費	設置 年月
本社ビル	30	31,074	484,271	6.4	自家消費	‘06 年 5 月
第 9 工場	50	61,718	484,286	12.7	売電	‘13 年 12 月
第 10 工場	50	68,269	573,670	11.9	自家消費	’19 年 2 月
第 11 工場	50	58,174	68,917	84.4	自家消費	’17 年 4 月
山崎第 2 工場	50	58,398	764,704	7.6	売電	‘12 年 9 月
合計		**277,633**	**2,375,848**	**11.7**		

設置工場の電灯電力（照明+パソコン等使用電力）のおおよそ12%が賄われています。
いよいよ日本も、2050 年度には温室効果ガス排出実質ゼロを目指すと宣言しました。
今後、太陽光を始め、再生可能エネルギー発電が当たり前の時代がやってきます。